

授業改善に関わる指導主事を支援する パッケージの開発

— 目標と指導と評価の一体化に関わる 教員研修を題材として —

学籍番号 179955

氏名 近藤 利之

主指導教員 木原 俊行

1. 指導主事と授業改善

本章は、3節で構成される。

第1節「指導主事に関する現状と課題」では、教育委員会指導主事（以下、指導主事）を対象とするアンケートの回答結果をもとに、教員研修（以下、研修）に関わる指導主事の現状とその課題を明らかにする。

第2節「目標と指導と評価の一体化に関する現状と課題」では、新学習指導要領の叙述、学校支援や大阪府教育センターの研修の状況などを踏まえて、目標と指導と評価の一体化をめざした授業づくりの現状や課題を述べる。

第3節「授業改善に関わる指導主事を支援するためのパッケージの必要性」では、それまでの節の内容を踏まえて、授業改善に関わる指導主事を支援するためのパッケージ（以下、パッケージ）の開発の必要性について言及する。また、そのための実践研究の計画も提示する。

2. 行政研修パッケージの開発

本章では、平成29・30年度に作成・実践・評価を行った行政研修パッケージの開発の事例について述べる。

第1節「プロトタイプの実践・評価」では、経験豊富な大阪府教育センターの指導主事と協働し、パッケージのプロトタイプを作成した過程について述べる。また、主に筆者による実践と評価を行った事例を示す。

第2節「本パッケージの実践」では、プロトタイプの実践結果を踏まえた改善、経験の浅い指導主事の行政研修に対する困り感の把握から、本パッケージを作成した過程について述べる。

第3節「本パッケージの実践」では、経験の浅い指導主事による本パッケージの実践について言及する。実践の準備、その実際、実践後の振り返りを詳述する。

第4節「本パッケージの評価」では、パッケージを利用した指導主事へのインタビューと受講者のアンケート結果の両面から、パッケージの有効性等を論ずる。

第5節「開発の総括と更なる活用への展望」では、評価の結果を踏まえた、パッケージの改善策、更なる活用への展望に言及する。

3. 校内研修パッケージの開発

本章では、平成29・30年度に作成・実践・評価を行った校内研修パッケージの開発の事例について述べる。

第1節「プロトタイプの実践・評価」では、経験豊富な大阪府教育センターの指導主事の学校支援の参観やそうした指導主事へのインタビューをもとに、パッケージのプロトタイプを作成した過程について述べる。また、主に筆者によるプロトタイプの実践と評価を行った事例を示す。

第2節「本パッケージの作成」では、プロトタイプの実践・改善と経験の浅い指導主事の校内研修に対する困り感の把握から本パッケージを作成した過程について述べる。

第3節「本パッケージの実践とその評価」では、経験の浅い指導主事による本パッケージの実践、その評価について提示する。それらの実践と評価のサイクルに3回従事し、パッケージを充実させていった経緯を叙述している。

第4節「開発の総括と更なる活用への展望」では、パッケージを活用した指導主事の実践の声をもち、その開発を総括的に評価している。同時に、経験豊富な指導主事によるパッケージの活用事例から見えた、更なる活用への展望にも言及する。

4. パッケージの発展と更なる利用

この章では、パッケージの発展と更なる利用について論じる。

第1節「パッケージの指導主事力量形成ツールとしての運用」では、パッケージ開発を通して創生された、指導主事のすぐれた振り返りについて言及する。パッケージ開発の事例やそれを利用した指導主事の声をもち、パッケージの「リフレクション創生ツール」としての役割について論ずる。次にパッケージ開発を通して創生された、指導主事間のつながりについて言及する。パッケージ開発の事例やそれを利用した指導主事の声をもち、パッケージの「コネクション創生ツール」としての役割についても述べる。

第2節「パッケージの市町村指導主事学習会における利用」では、経験豊富な市町村教育委員会指導主事が示したパッケージへの意見から、校内研修パッケージの市町村指導主事学習会での利用の可能性、その在り方について述べる。また、その他のシーンにおけるパッケージの活用可能性についても言及する。